# にっぽん再構築

## 脱炭素への道

9 食品

# 水平リサイクルを軌道に

## ペットボトル 資源循環

食品業界ではペットボトルの水平リサイクル「ボトルtoボトル」を中心にカーボンゼロの取り組みが進む。サントリーホールディングス（HD）や東洋紡などが2020年7月に設立した使用済みプラスチック再資源化事業会社「アールプラスジャパン」には新たに三井化学、リスパック、三友プラントサービスが参画し、出資会社が25社に拡大。異業種連携で資源循環型の持続可能なリサイクルが加速する。

### 異業種が連携

アールプラスジャパンは米国のバイオベンチャー、アネロテックのプラスチックをキシレンなどの直接原料に戻すケミカルリサイクル技術の開発を支援し、27年の実用化を目指す。

アネロテックのリサイクル技術は従来の油化工程を経由するケミカルリサイクルよりも少ない工程で処理でき、温室効果ガス抑制が期待できる。

実用化できれば、出資会社はこの技術を生かして水平リサイクル事業を展開し、アールプラスジャパンはライセンス供与で収益を得るビジネスモデルを構築する。サントリーHDの新浪剛史社長は「1年でも2年でも早く実現しろと、現場に発破をかけている」と意気込む。

### 100％再生容器

飲料各社ではリサイクルペットボトルの導入が進む。日本コカ・コーラは主力ブランドにリサイクルペットボトルを導入し、22年にリサイクルペットボトル比率を50％に引き上げ、25年に100％にする方針。サントリー食品インターナショナルは30年までにリサイクルペットボトルとバイオペットボトルに100％移行する計画で、日本コカ・コーラが一歩先行した格好だ。

▲回収してもペットボトルにリサイクルされるものはわずかで、日本の水平リサイクルの比率は低水準

### 回収品質良く

資源循環型の理想的なリサイクル形態である水平リサイクルだが、使用済みペットボトルの回収が課題。水平リサイクルのためには洗浄し、異物を除去したペットボトルが必要となる。

19年度に日本で回収されたペットボトルは55万2000㌧で、回収率は93％、リサイクル率は85・8％と世界でも高水準。だが、回収してもペットボトルにリサイクルされるものはわずかで、水平リサイクル比率は12・5％にとどまる。

サントリー食品インターナショナルは2月に、兵庫県の2市2町と連携しペットボトルの回収からリサイクル、製品化までを地域で完結する仕組みを確立した。また、全国清涼飲料連合会は東京都と連携してリサイクルステーションの実証実験を実施し異物混入率を低減した。飲料メーカーは自治体との連携で回収における課題解決を目指す。

（おわり）

＊西沢亮、編集委員・鈴木岳志、同・土井俊、孝志勇輔、同・松木喬、梶原洵子、山下絵梨、同・山中久仁昭、高屋優理が執筆しました

無断転載・複写禁止